



興讓館

第47号

発行／平成30年8月1日
米沢興讓館同窓会
会報編集委員会
当会報の題字は、今回から
第12代藩主 上杉斉憲公の
書によるものです。



東京支部総会・懇親会 盛大に開催される!! ～新体制発足～

七七会勢ぞろい 東京支部 新支部長に七七会・横山彰人君（昭和42年卒）
小嶋彌左衛門同窓会会長（昭和42年卒）と固い握手

同窓会発展に尽力!!

平成三十年度、第五十六回米沢興讓館東京支部総会・懇親会が、「絆（きずな）を深め同窓の輪を」のスローガンのもと、七月十四日、ホテル・ニューオータニで開催されました。ご来賓に本校から、横戸 隆校長、小嶋彌左衛門同窓会会長、小島長五郎母校体育文化後援会長がご臨席され、また高鍋高等学校はじめ置賜、山形、寒河江、鶴岡といった高校同窓会会長の方々も出席され、有意義な楽しい会になりました。同窓会の維持発展について各高校同窓会と様々な課題を共に共有することは、情報交換にとどまらず貴重な機会と考えています。

東京支部は本年度役員改選の年でもあり、新執行部として支部長 横山彰人（S42年卒）、副支部長 嶋貫昭雄（S37年卒）、副支部長 近藤郁子（S37年卒）、幹事長 樋渡三保子（S40年卒）、監事 鈴木吉助（S36年卒）、監事 金子晃司（S41年卒）、さらに企画、広報、組織といった役割分担ごとに計20名の副幹事長を選任し、承認されました。厳選された記念講演とアトラクションは、時代にタイムリーで且つ魅力ある企画を考えていますが、同窓会運営の重要なコンセプトのひとつと位置づけています。今回の記念講演は、桐生正幸（S55年卒）東洋大学教授、演題は「現代社会と犯罪心理学」。懇親会のアトラクションはジャズ歌手 青柳陽子さん（S56年卒）の、「懐かしのポピュラーソング」を歌っていただき、大盛会でした。

興讓館同窓会各支部や各高校同窓会と連携しながら、質の向上を図り、東京支部独自のカラーを打ち出し、同窓会の発展に尽力していきたいと考えています。

米沢興讓館東京支部 支部長 横山 彰人



第八代同窓会会長就任にあたって

米沢興讓館同窓会会長 小嶋 彌左衛門

(昭和四十二年卒)

江戸時代の藩校から続く興讓館という校名は地域を代表する学校であることを自他ともに認めて現在まで継承されてきました。そして、数多くの有為な人材を輩出してきました。この歴史と伝統ある興讓館で学び卒業したことは私達にとって誇りであります。この様な伝統ある興讓館の同窓会長に選任され、緊張感を持って役目を務めて早くも一年になります。

各支部総会にお伺いしながら今までの同窓会活動を把握するようにしてきました。支部それぞれに支部長を中心に活発に活動しておられ、大変心強く感じております。さて、同窓会の役割としては、一、卒業生を組織としてまとめいくこと、二、学校と卒業生を結び付けていくこと、三、現役の在校生を応援していくこと、四、そして興讓館の発展の為に応援していくことなどだと思います。役員が纏まって尽力して参るつもりですが、会員皆様のお力添えがなくては何事も達成できません。どうぞ皆様、興讓館同窓会の為に

お力添えを賜りますように心からお願い申し上げます。

同窓会総会懇親会は毎年大勢の同窓生が集って大変盛況に行われます。今年は昭和五十八年卒業生を筆頭に担当学年の皆さんが鋭意準備を進めてくれました。今年も盛会に開催されます。

卒業生が一堂に会して母校への想いを語り合い共有できる貴重な機会です。大いに盛り上げ、会員の絆を一層強くしていこうではありませんか。

そして、これから同窓会員として母校興讓館が地元の有為な人材を育んでいくことをお手伝いして参りましょう。よろしく
お願い致します。



大友恒則会長ご苦労様でした(平成29年10月3日)



「興讓」の精神を中核に据え、興讓館生を育成

校長 横 戸 隆

米沢興讓館同窓会の皆様には、母校の教育活動に深いご理解と多大なご支援を賜り心から厚く御礼申し上げます。

さて、この四月に二〇二名の新入生を迎え、平成三十年度がスタートしました。生徒たちは、受け継がれてきた「興讓」の精神の下、「文武両道」日々の授業を第一に、部活動や自治会活動に、己を磨くべく一生懸命に取り組んでいます。

今年度からの大きな動きとして、山形県では本校を含む県内三校の進学校に「探究科」を設置、自ら設定したテーマの課題を探究する学習活動を通して学力の向上を図る施策がスタートしました。その背景には、本県の進学実績が年々厳しさを増していることがあります。本校では、昭和四十三年に全国に先駆けて設置された理数科を「理数探究科」として継承し、よりグローバルな学びを重視した「国際探究科」を新設、そして「普通科」の三学科を設置し、未知なる世界へ創造的に挑戦し、高い志を持ち、これからのグローバル社会や地域社会を切り拓くリーダーの育成をめざします。そのために、評価と指導方法の改善、本校のキャリア教育とスーパーサイエンスハイスクール(SH)で培った探究活動の成果を全校展開し、多様な生徒の能力を引き出し、高いレベルで進路希望を実現する取り組みを全職員で展開しているところです。

また、第三期二年目を迎えた文部科学省の指定研究であるSSH事業では、「未来に果敢に挑戦できる科学技術人材の育成」をテーマに掲げ、評価のあり方の研究と生徒の主体的な学びを促す教科指導力の向上をめざし実践しています。生徒の活動では、四年連続で「科学の甲子園全国大会」に、二年連続で「全国高等学校文化祭科学専門部門」に出場、さらに日本学生科学教育山形県大会で優秀賞(県知事賞)を受賞する等、確かな力を付け成果を挙げています。

いま、高校教育を取り巻く環境は、高校・大学・高大接続の三位一体となった「教育改革」、教員のワークライフバランスを図る「働き方改革」、そして、少子化による東南置賜地区の「高校再編整備計画」など、激変する社会に対応すべく、大きな転換期にあると言えます。これからも、受け継がれてきた興讓館の普遍的な「興讓」の精神を中核に据え、興讓館中学校校歌に謳われる「自然に祖先に恵まれた」環境の中で「高き理想を望みつつ不撓不屈に進み」、現校歌に謳われる「人みな命をあがめ」わが力、わが誠を「世のために尽す」興讓館生の育成に、教職員一丸となって取り組んでまいります。

結びに、興讓館同窓会の益々のご隆盛と、会員の皆様のご健勝・ご活躍を心から祈念申し上げます。

教育活動紹介



カウンセリングについて

保健主事
家庭科教諭 渡部 弘美

本校に対して同窓生の皆さまより、日々さまざまなご支援をいただき感謝申し上げます。

この度は、本校保健課で担当しております健康やカウンセリングについて学校の様子をご紹介します。現在、本校は今年度より新たに設置された「探究科」2クラスの新入生と普通科3クラスの新入生が加わりいきいきと元気に生活しております。従来の「興譲の精神」及び新たに「目指す生徒像」を策定し新たな教育活動を展開しております。それらの活動が生徒の成長につながるためには、心身の健康が基盤となります。特に、日常の生活リズムや食事、睡眠が重要です。高校時代は、外見の成長はとまっても体内の各器官は途上です。また、アイデンティ

ティの確立に揺れる時期でもあり精神的な不安定さがある時期です。そのような生徒たちに向けて本校では入学時点で、入学翌日に仲間作り・居場所づくりを目的にグループエンカウンターを実施します。ゆつたりとしたながれの中でクラスメートに担任も加わりゲーム感覚で自己紹介や交流をします。登校初日の生徒の緊張感は当然ながら非常に高く、活動後の表情には安堵感が表れています。心もからだをほぐすこの活動は高校生活をスタートするにあたって大切なものになっています。また、他者と良好な関係を構築するためにコミュニケーションの基本も体験しますが、人見知りで人付き合いが苦手な生徒にも他者と関わるきっかけを得て仲間づくりにつながっ

ています。

八月の興譲祭では、ピアカウンセリングをテーマに三友堂看護専門学校の学生さんのご協力をえて保健委員が活動を行います。

生徒が主体となるこの活動も毎年好評を得ています。また、通年で実施しております教育相談には、2名のカウンセラーの先生にご協力いただき、生徒はもとより保護者の方を対象に相談業務を行っております。高校生とはいえ、思春期のゆれや不安があり面談することと自分なりの答えを探し出す手がかりになります。生徒の可能性や元々持っている自分らしさが生かされるよう向き合っていたいております。

本校においでの方さまから生徒のあいさつのさわやかさ・朗らかさをお褒めいただきます。そのような笑顔がずっと輝くよう教職員一同努力して参りますのでご協力よろしくお願いいたします。



自治会応援団入会式

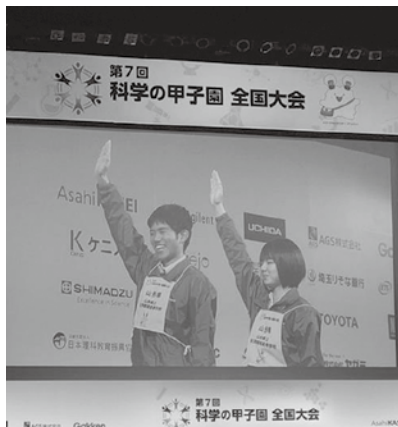


1年グループエンカウンター

文武両道の大活躍

SSH (スーパーサイエンスハイスクール) 3回目のSSH指定

本校は、全国の高等学校の4%の進学校が指定される、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールです。「未来に果敢に挑戦できる科学技術系人材の育成」を研究課題として、平成29年度から平成33年まで5年間継続して研究開発に取り組んでいます。



◎体育部の躍進

平成29年度

南東北インターハイ
陸上・女子100mH 第2位 佐藤 和
フェンシング・女子団体出場
男子個人フルール出場 大西ひかる
女子個人フルール出場 後藤ゆうか
女子個人エペ出場 遠藤 美琴

弓道

全国高等学校弓道選抜大会及び東北高等学校弓道選抜大会
男子団体出場
男子個人 東北高等学校弓道選抜大会出場
ホッケー
東北高等学校ホッケー選抜大会
男子・女子出場
フェンシング
全日本フェンシング選手権大会
女子個人エペ出場

平成30年度

山形県高校総体兼全国高校総体山形県予選会(夏季競技)

ホッケー部

男子県高校総体二位、東北大会三位
女子県高校総体二位、東北大会出場

フェンシング部

女子学校対抗第一位 インターハイ、東北大会出場

男子個人フルール

第一位 大西ひかる
インターハイ、東北大会出場

エペ

第二位 大西ひかる
東北大会出場

女子個人フルール

後藤ゆうか 第一位 インターハイ、東北大会出場
鈴木 麟 第二位 インターハイ、東北大会出場

遠藤 美琴

第三位 東北大会出場

八巻史緒理

第四位 東北大会出場

エペ

八巻史緒理 第一位 インターハイ、東北大会出場
遠藤 美琴 第二位 東北大会出場

弓道部

女子個人

田中 愛音 準優勝 インターハイ、東北大会出場

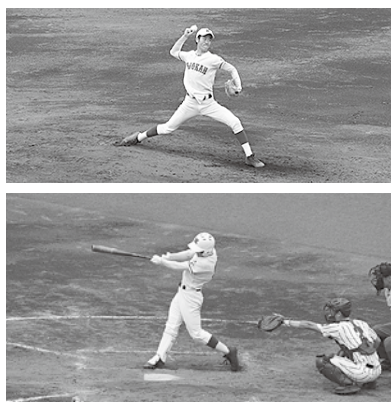
男子団体

準優勝 東北大会出場

野球部

第100回全国高校野球山形大会

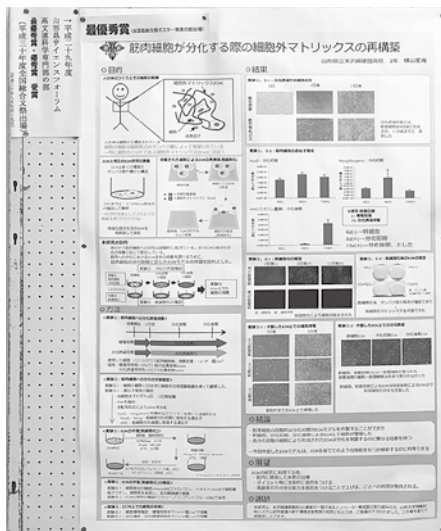
ベスト16(対 酒田南高校・全校応援／きらやかスタジアム)



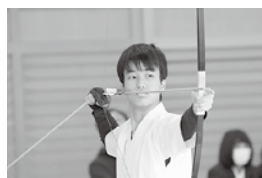
◎文化活動の躍進

3回目のSSH指定に伴う理数系の活躍が目覚ましい。

科学の甲子園全国大会3年連続出場
CSS(コア・スーパーサイエンスクラブ)
山形県サイエンスフォーラムで 最優秀賞・優秀賞
さらに 高文連 科学専門部の部
全国高等学校総合文化祭自然科学部門出場



ホッケー



弓道



フェンシング



同窓生のみなさまのご支援をよろしくお願いします！



さらば平成！ 米沢興讓館同窓会会報に寄せて

平成三十年度同窓会総会・懇親会

実行委員長

遠 藤 友紀雄

(昭和五十八年卒)

今年度、同窓会総会懇親会

実行委員長を仰せつかりました遠藤友紀雄と申します。同窓会の皆様、今年も思い出深い一夜となります様、努力させて頂きます。どうかよろしくお願い致します。

おります。

私の生まれた白布温泉では、以前、六月の一年生の西吾妻登山、九月の白布マラソン・キャンプファイヤーという二大行事が行われ、私もこの行事に参加される先輩方を見て育ち、私自身も参加して参りました。全校生徒が白布の地に集い、共に一夜を過ごすことは素晴らしい思い出にあふれた行事でした。

時移り、行事も変遷しました。様々な事情で全校参加白布マラソンもキャンプファイヤーも無くなり、時代の変化を否応なしに実感致して

本年の同窓会・懇親会は、「さらば平成 新しい時代に向かってKOJO」をテーマに実施致します。平成三十年、平成に終わりを告げ、新しい年号の時代に入ろうとしております。「人あまた

あと継ぎで」校歌にあります通り、この後も新しい時代に連綿と「継いで」行くこと、伝統、そしてその継承。

本年は、我々東京オリンピック(昭和三十九年生まれ)世代を筆頭に、昭和六十二年卒・平成四年卒・平成十年卒・平成十五年卒として平成二十年卒、若い同窓生と力を合わせて実施致します。まさに「人あまた あと継ぎで」を実践し、「新たな時代に向かって」まさに「興讓く向上」を志向したいと存

じます。

わがまちを取り巻く様々な状況も変化しつつあります。昨年十一月の東北中央自動車道の開通、今年四月の「道の駅米沢」の開業、人の流れも物の流れも変わります。海外からの道もますます開かれることでしょう。

しかし変わらない、変えてはいけない興讓の心、向上への熱き情熱、これを「継いで」行くこと、九月十五日、今年も皆で集い、そして語り合い、平成の思い出、新しい扉を迎える準備をして参りましょう。

興讓館に関わりある沢山の方々、沢山の同窓会会員の皆様を心よりお迎え致します。

米沢興讓館同窓会

平成三十年度

総会・大懇親会ご案内

スローガン

「さらば平成 新しい時代に向かってKOJO」

- 一、日時 平成三十年九月十五日(土曜日)
- 一、会場 グランドホクヨウ(市内金池二丁目)
- 一、日程 ①総会 午後四時～
- ②大懇親会 午後六時～

米沢興讓館同窓会会長

小嶋 彌左衛門

平成三十年度同窓会・懇親会実行委員長

遠藤 友紀雄

米沢興讓館高等学校

創立記念式典・記念講演

- 一、日時 平成三十年九月十九日(水曜日)

- 一、会場 興讓館高校 記念講堂

一、日程

- ①式典 午前九時二十五分～午前十時
- ②保護者・同窓生入場 午前十時～午前十時十五分
- ③記念講演 午前十時二十分～午前十一時五十分

講師 翻訳家 青木 薫氏

(昭和五十年卒)

演題 「異なる文化に橋を架けるー理系と文系、日本と世界ー」

【講師略歴】 京都大学理学部卒業、理学博士。二〇〇七年度日本数学会出版賞受賞。

主な翻訳書・フェルマーの最終定理(サイモン・シン(著) 新潮社/二〇〇六年五月)、暗号解読(サイモン・シン(著) 新潮社/二〇〇七年六月)、宇宙創成(サイモン・シン(著) 新潮社/二〇〇九年一月)

その日、のび太の 引き出しが出現する



長嶋 淳一郎
(昭和六十二年卒)

本年度実行副委員長を拝命しました。卒業して三十数年、日々の生活、仕事等でストレス蓄積当たり前の年頃になりましたが、同期で集合すると一瞬ですべて忘れあの時代へトリップ！私はその感覚がたまりません。

毎年九月の同窓会懇親会では、会場全体がタイムマシンと化しテーブル毎様々な年代設定の異次元空間が出現します。またがんならう！栄光への道♪

次の幹事当番では筆頭学年になります。興讓館同窓生のオアシスを引き継ぎ提供できよう勉強を兼ねて頑張ります。



幹事学年代表としての抱負



漆山 裕
(平成四年卒)

二〇一九年には平成の元号が終わりを迎え、いよいよ新しい時代が始まります。私たち平成四年卒は、平成元年に興讓館に入学し平成四年に卒業した、「高校三年間を平成で過ごした最初の世代」といえます。そんな私たちも齢四十半ばとなり、いわゆる人生の折り返しに差し掛かっております。ここからスパートをかけるか、ゆつくりとゴールを目指すか、そんな時期にきているような気がします。そんな中で迎える今年の興讓館高等学校同窓会は、またひとしおに感慨深いものであり、私たちの同級生も久しぶりに会えるという喜びをもって、この日を迎えることと思います。

今年は私たちの代がチケットの管理を一挙に担うという役割を拝命しており、その責任の重さに身が引き締まる想いでおります。必ずや同窓会を盛会のうちに終わらせ、次の世代にしっかりとバトンを渡せるよう頑張っております。



新しい未来に 繋いでいく



佐藤 美洋
(平成十年卒)

山形県立米沢興讓館高等学校におかれましては創立一三二年を迎え誠にありがとうございます。平成三十年と節目の年であると共に、平成期最後という時代の遷移に際したこの度の同窓会総会・懇親会の幹事学年を担当させていただくことになり、大きな喜びを感じていると同時に、重大な責務を担っていると強く思っております。

平成十年卒の私たちが幹事を担当させていただくのは、この度で二回目となりますが、回を重ねる毎に役割の重要度は上がっており、裏方ではありますが、主役を形成するほどの意気込みで臨んでまいりました。これまで諸先輩方が受け継いできて下さったように、今年も「米沢興讓館の伝統」「同窓会の重要性」、そしてなにより「憩いを得る場所」としての本会開催に全力を尽くす所存であります。本会の大成と、これからの興讓館、同窓会、そして皆様の隆盛を祈念いたしまして挨拶に代えさせていただきます。



同窓会懇親会に向けて



黒 金 正 澄

(平成十五年卒)

早いもので二回目の幹事学年を務めさせていたくこととなりました。

前回、特に印象深かったのは、幹事として御一緒させていただいた先輩方が、卒業から長い年月が経過しても学年単位での結びつきを保たれていることです。

私たち平成十五年卒は、クラス会はあるものの、学年単位での集まる機会は、これまでありませんでした。今回の幹事年は、先輩方のような末永く密な学年のつながりの礎を造る貴重な機会と捉え、同窓会懇親会に向けて旧交を温め、またより深めていきたいと考えています。

末筆にはなりますが、本年も多くの方々に御出席いただけるよう、また、楽しいひと時をお過ごしいただけるよう、誠心誠意努力して参ります。どうぞよろしく願います。

福 嶋 なつみ

(平成二十年卒)

私たち平成二十年卒学年は、全員が平成生まれになった最初の学年です。そのため、至る場面で「平成」の選択肢がなく、進学・就職と新しいステージに行くたびに、「平成生まれ！」と驚かれてきました。そんな私たちが、平成最後の幹事学年であるということに不思議なめぐり合わせを感じております。

この学年は、卒業三年目に学年主任をしていた柿崎悦子先生の呼びかけのもと第一回学年同窓会を開催し、八十三名が集まりました。それを機に二三年に一回のペースで学年での会を催しており、毎回六十名近い出席者でクラスの垣根を越えた交流が続いています。今年は三月に卒業十周年を迎えた節目の年というところで、例年よりも規模を拡大し、八月十一日に第二回同窓会を計画しております。

初めての幹事学年ということで、一回目の実行委員会から緊張の連続でありましたが、持ち前の学年の結束力で微力ながら、先輩幹事のみなさまと同窓会懇親会成功に向けて頑張ります。



今年の実行委員の様子



昨年の懇親会において、
遠藤友紀雄君を代表に幹事学年整列

平成30年(創立132年)
米沢興譲館同窓会懇親会 会員券

氏名

さらば平成
新しい時代に向かって
KOJO

興譲

2018.9.15 Sat.

総会：午後4時 / 懇親会：午後6時
会場：グランドホクヨウ/5,000円

卒業年度・氏名をご記入の上、胸元テープに本券を差し入れてください

昨年の懇親会を経験して

NEXT ～ 深化する友情 進化する伝統 ～



我妻 弘一

(昭和六十一年卒)

昨年、同窓会・懇親会を準備していたことが遙か昔のように感じます。昭和六十一年卒学年は四回目の幹事学年として懇親会の進行・会場設営の担当として当日を迎えました。前回、チケット全般の担当学年として関わったときに、懇親会運営全般の担当は、それほど業務量が多く見えませんでした。いざ担当してみると、チケット担当以上業務量でした。この幹事学年を務める意義について私なりに考えてみたいと思います。

れほどの意味があるのか？そんな事を考えるとやりきれない気持ちにもなるのですが、幹事学年として大変な学年（チケット担当と懇親会運営）を二回経験して分かったことがあります。もしこの同窓会祝賀会運営制度がなかったらどうだったか？興譲館を卒業して、再び会うことがない同級生がいたはず。私達学年では、前回幹事の時に、労力をかけ同級生の所在を調べ、次回の案内が楽になるようメールアドレス聞くなどしました。おかげで、同窓会に納める学年会費も数年分集めることが出来ましたし、幹事学年としての動員案内も前回と比較すると速やかにすることが出来ました。六十名近くの同級生が

県内外から集まり、そして話をすると、高校時代の仲間と集うことを楽しみにしている者がいることがわかります。おそらく、この興譲館同窓会の幹事学年の担当制度がなかったら、自発的に同級生で集まることは難しいことと思われ。①同窓会懇親会の幹事学年になる。②同級生にチケットを買ってもらわなければならない。③幹事学年になると、同窓会の会費納入から逃れられない。④同級生の住所連絡先を把握しなければならぬ。⑤そうすると、ほぼ全同級生に同窓会の案内を送ることが出来、同級会も開催できる。

そんなことを考えると、この同窓会の実行委員を務めることは、米沢に残る者の責任であるように思えてきます。いよいよ平成三十三年の同窓会が、我々最後の幹事学年となります。そんなことを次世代の幹事学年に伝えることが最後の幹事学年の責務の一つと思っております。



応援歌斉唱



自治会歌斉唱



堤郁雄（昭和57年卒）平成29年度
実行委員長の挨拶

同窓生の今

自分が大切になっているもの！

本館 教子(旧姓 山村)

聖マリアンナ医科大学病院副院長
看護部長

(昭和五十三年卒)



同窓会誌に寄せて、これまでに歩んできた道のりを振り返る機会を頂き、ありがとうございます。

現在、私は横浜市に在住し、医療関係の仕事に就いています。途中10年あまり専門主婦時代を送りましたが、残りは看護師として実践から管理までかわってきました。

現在の医療の課題は、皆さんがご存知の通り少子高齢多死社会の中で、医療ニーズに医療提供が追いつかない状況にあることです。そのために病院完結型から地域完結型の医療が求められ、病院機能の分化・在宅医療の充実・医療者の確保に関する施策が進められています。と同時に財源の確保も近々の課題と言えます。

この様な背景の中で、看護職は「いのち・暮らし・尊厳を守り支える看護」をスローガンに切れ目のないケアの実現をめざしています。

私が所属する病院は、先進医療、急性期医療と共に地域の基幹病院としての役割も担っています。患者さんの生活の価値を尊重しながら、その方がどう生きたいかを支える看護、「セルフケア看護」を中心に置いています。

「リビング ウィル」「アドバンスド ケアプランニング」など、国民一人一人が人生の最終段階をどのように過ごすのか問われる時代になりました。日々突発的な出来事の連続ですが、何とか周りの方々の力を借りながら、悪戦苦闘しています。

プライベートでは、還暦を目の前にし自分の健康にも気を使うようになりまし



*小4の孫と
プライベートでは、二人の娘にそれぞれ子供が二人ずつおられますので、休日は4人の孫たちと過ごすことが唯一の楽しみです！

た。またモノが溢れかえっている身の回りの状況も最近気になっていきます。

『断捨離』という言葉はよく耳にしますが、その意味合いは深く、単に「モノを捨てる」ということに留まりません。モノを通して自分を縛る「執着」や「観念」を捨てていると言います。自分が本当に大切にしているモノが明確になる、「自分の人生」を生き直すために必要な事であると言います。

私もそろそろ生き直すための整理を始めてみようかと思っています。私の役割は今まで通りで違いはありませんが、一度原点に戻り大切にしたいことを見つめ直すことも必要だと思いました。

米沢を訪れることはなくなりましたが、原点に帰るという意味では大切な「心の拠り所」です。近いうちに行ってみようかな……!!

同窓生を訪ねて

日本料理「馬場乃町はやし」

大竹林太郎さん(平成四年卒) 訪問



地元の方は既に訪れた方もおられると思う。爽やかな五月の昼下がり、「馬場乃町はやし」の大竹林太郎さん(平成四年卒)を訪問した。祖母のお住まいを改造したお店だそうだが、依頼をした横山設計(山形市)は、偶然にも興譲館OBであつたらしい。場所は上杉神社の近く、米沢の旧町名「馬場ノ町」の静かな住宅地にあり、ツツジや庭の木々と建物の外観からは城下町らしい風情が感じられた。

七十二候の言葉「紅花栄頃」と添えてあるお昼のコースをいただいた。先附の帆立と海老の餡をかけた豌豆寄せから甘味「苺蜜豆」まで八品目、一つ一つが食材の本来の味や色使いが感じられるお料理で、土鍋で炊いた筍御飯は目の前で器によそっていたき至福のひとつときであった。

Q 大竹さんは、東京でも有名な日本料理店の板前をしておられましたが、米沢で「馬場乃町はやし」をはじめられた経緯は？

高校卒業後、福島大学行政社会学部に進学、学生時代は公務員を目指す傍ら、地元の居酒屋でアルバイトに励む中で、次第に料理の世界に興味を持つていきました。

大竹さん
自慢の料理

大学卒業後いわき市の寿司・割烹で七年修業を積み、その後東京麻布にある日本料理「分とく山」で見習いから修業をし、最後は六本木支店の店長を任されました。板前として影響を受けたのはやはり親方である野崎洋光氏です。早朝から深夜まで料理を作り続けていくなかで、閉鎖的でなく理論的に日本料理の文化・技術を学び、また、板前としてだけでなく、一社会人としての在り方も教えていただきました。修業も半ばではありませんでしたが、父の死をきっかけに帰郷し、妻の言葉に背中を押され料理屋を開業することができました。両親の同級生の興譲館OB・OGの方々を中心に、皆様に応援していただき感謝しています。

Q 高校時代はどんな生活を送られていましたか？
勉強と部活動（バスケットボール部）の日々でした（笑）。米沢を離れ修業をしていましたし、長い休みもないのでOB会には顔をだせませんでした。今年は同窓会の幹事学年なので頑張りたいし。地元にいる同窓会の方々との繋がりは大切にしたいです。

Q お薦めのお料理は？
「分とく山」で学んだ鮑料理と土鍋の炊き込みごはんが名物です。また、冬には天然とらふぐコースも提供しています。

Q 大竹さんから一言。
「馬場乃町はやし」は今年開店から四周年を迎えます。小さい店だからこそできる、作り立ての料理の風合いを大切にこれからも励んでまいります。一度地元を離れて改めてわかった、米沢・山形の素晴らしい食材の力を借りて、お客様に季節を味わう喜び、そして米沢にいることの喜びを感じていただきたいですね。

夜は、お酒とともにゆっくりお料理を楽しむコースもあるとのこと、是非足を運んでほしい素敵なお店だった。

【取材：山口みどり（昭和六十年卒）／横山昭子（昭和六十一年卒）】

支部だより

米沢支部の近況、課題について

米沢支部事務局長 栗林雄二
(昭和五十一年卒)

昭和五十七年、同窓会本部事業への協力を掲げて出来た米沢支部は、独自の活動の充実の為平成九年から、春に総会を兼ねた「観桜会」を、また平成二十四年からは「秋の懇親会」を芋煮会を兼ねて行っています。秋の会には先輩方を講師としてお迎えし講演会も行っているところです。春の総会は旧校舎跡地で行う事になっており、以前は桜の木の下で莫塵を敷いて酒盛りでしたが、年々参加する方々の年齢も上がってゆき、外でやるには風が強い、冷たいと体調を崩す恐れがあり、また雪が残っている年もあり、跡地に立っている「アクティ―米沢」内で行う事が多くなっています。また、旧校舎で高校時代を過ごした同窓生と現在の校舎で過ごした同窓生では跡地への思いは違い、若い方々の参加はなかなか難しいようです。

今年の春の会は三十六名の参加者を得て賑やかに開催されました。席上、支部役員の交代があり支部長は、今まで九年間リードして下さった早川正信先輩（昭和三十三年卒）から齋藤榮助先輩（昭和三十八年卒）に代わられました。また、監事も安達治雄先輩（昭和三十三年卒）、安田道隆先輩（昭和三十八年卒）から佐藤政治先輩（昭和四十八年卒）、雨田孝先輩（昭和四十九年卒）に代わられ新たなスタートを切ったところで、これから秋の会の準備に入りますが、講演をして頂ける方を捜しております。期日は11月、会場は市内の招湯苑になる予定です。毎回、学年の代表者、連絡先に案内をお出ししていますので、時期になりましたらご確認下さい。

今後若い世代の、といっても昭和五十年代以降の卒業生になるのですが、多くの参加者を得て米沢支部の存続発展に寄与して頂きたいと思えます。それが同窓会本部の充実に少しでもお役に立てることになると信じています。勿論、昭和五十年代以前卒業の先輩方にも多数の参加をお願いします。



米沢支部秋の懇親会
「記念誌」編集余滴と題して講演する
鈴木基同窓会副会長（平成29年11月18日）

◎平成28年度 同窓会会計決算書

(会計年度 平成28年9月1日～平成29年8月31日)

収入の部

(単位：円)

項 目	予算額	収入額	増減(△)	備 考
繰 越 金	982,003	982,003	0	前年度繰越金
入 会 金	1,372,000	1,365,000	△ 7,000	7,000円× 195名
年 会 費	2,300,000	1,500,000	△ 800,000	
過年度会費	0	150,000	150,000	昭和57年卒 昭和59年卒
130周年記念 事業補助戻入	0	384,491	384,491	130周年記念事業会 計より残高の戻入
雑 収 入	997	12,412	11,415	130周年記念誌 売上・預金利子
計	4,655,000	4,393,906	△ 261,094	

決算額

収入額 4,393,906円 － 支出額 3,263,058円
＝ 残額 1,130,848円 (次年度へ繰越)

○資金の残高

＝米沢信用金庫本店営業部 普通預金 1,130,848円

○財政安定積立金残高

＝ 同上 同上 500,361円

○前受会費残高

＝ 同上 同上 2,980,557円

◎平成29年度 事業計画

①母校振興発展に必要な事業

②会員の親睦に関する事項

③会報の発刊

④その他、目的達成に必要な事項

◎平成29年度 同窓会会計予算書

(会計年度 平成29年9月1日～平成30年8月31日)

収入の部

(単位：円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
繰 越 金	1,130,848	982,003	148,845	前年度繰越金
入 会 金	1,400,000	1,372,000	28,000	7,000円× 200名
年 会 費	2,300,000	2,300,000	0	昭44年～平 20年まで5万 円(40学年) 昭34年～昭 43年まで3万 円(10学年)
雑 収 入	152	997	△ 845	預金利子
計	4,831,000	4,655,000	176,000	

前年度からの繰越額

○財政安定積立金

＝米沢信用金庫本店営業部 普通預金 500,361円

○前受会費

＝ 同上 同上 2,980,557円

支出の部

(単位：円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
運 営 費	1,262,000	1,242,000	20,000	
会 議 費	50,000	60,000	△ 10,000	理事会等の会議費
通信連絡費	50,000	40,000	10,000	郵便切手等
需 用 費	100,000	100,000	0	慶弔・事務用品
人 件 費	1,062,000	1,042,000	20,000	人件費1,012,000+ 50,000 (9月手当)
事 業 費	1,956,720	2,057,388	△ 100,668	
一般事業費	1,000,000	1,100,000	△ 100,000	各支部総会、会報送料補助、 HP運営費、総会補助金等
母校活動補助金	300,000	300,000	0	高鍋高校交流事業(来校)等
卒業記念費	306,720	276,588	30,132	記念品代(200名分)
表 彰 費	0	30,800	△ 30,800	H29年度の該当者なし
会 報 費	350,000	350,000	0	印刷費
予 備 費	1,612,280	1,355,612	256,668	
予 備 費	1,612,280	1,355,612	256,668	次期繰越金が多額になる場合には、財 政安定積立金に振り替えることがある
計	4,831,000	4,655,000	176,000	

米沢興譲館同窓会本部・支部

()は卒業年

◎本 部 〒992-1443 山形県米沢市大字笹野1101
米沢興譲館高校内 ☎0238-38-4741
会 長 小嶋彌左衛門(S42)
副 会 長 小林 擴二(S36) 佐野 隆一(S47) 鈴木 基(S49)
藤倉万里子(S53)
監 事 江部 寛(S48) 土田 一成(S51) 松田 純一(S56)
顧 問 高野 譲(S29) 大友 恒則(S35)
常務理事 磯部 道昭(S44)
副常務理事 川島 良範(H6)
常任理事 加藤 英樹(S53) 小池 忠宏(S54) 益子 光子(S55)
相田 晃輔(S56) 高橋美和子(S57) 佐藤 知由(S59)
佐藤 詠一(S63) 安部 徳朗(H2) 平山 順一(H4)
佐藤 美洋(H10)

◇米沢支部
支 部 長 斎藤 榮助(S38)
〒992-0045 山形県米沢市中央1-7-30
☎0238-22-4146 (支部長 斎藤 榮助)

◇東京支部
支 部 長 横山 彰人(S42)
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-3-23
☎03-3348-2808 fax03-3348-2829
(支部長 横山 彰人)

◇関西支部
支 部 長 中川 勉(S41)
〒606-8024 京都市左京区修学院千万田町5-84
☎075-701-9121 (支部長 中川 勉)

◇宮城支部
支 部 長 田林 暁一(S41)
〒981-0954 宮城県仙台市青葉区川平2-17-28
☎022-279-8951 (支部長 田林 暁一)

◇山形支部
支 部 長 後藤 寛(S40)
〒990-2483 山形県山形市上町5-1-21
☎023-645-4420 (支部長 後藤 寛)

◇高畠支部
支 部 長 鈴木 征治(S33)
〒992-0344 山形県東置賜郡高畠町大字深沼12-5
☎0238-52-1777 (事務局長 八巻裕一(H1))

◇川西支部
支 部 長 金子 勤(S34)
〒999-0121 山形県東置賜郡川西町上小松2810-3
☎0238-42-4522 (支部長 金子 勤)

◇赤湯支部
支 部 長 佐藤 有弘(S37)
〒999-2231 山形県南陽市二色根373
☎0238-43-6660 (支部長 佐藤 有弘)

◇宮内支部
支 部 長 山水 克美(S38)
〒992-0472 山形県南陽市宮内3172
☎0238-47-7055 (支部長 山水 克美)

◇小国支部
支 部 長 高橋 清人(S38)
〒999-1353 山形県西置賜郡小国町大字兵庫館2-3-14
☎0238-62-2714 (支部長 高橋 清人)

◇長井・西置賜支部
支 部 長 斎藤 道郎(S42)
〒993-0035 山形県長井市時庭2306 サンリット化成㈱
☎0238-88-9632 (支部長 斎藤 道郎)

◇県庁・教育委員会支部
支 部 長 島貫 誠(S52)

◇ニューヨーク支部
*Director & Gen.Manager:EBE TAKASHI(1959 Grad)
AD:525 RIVERDALE AVE(Rm5G)YONKERS N.Y
10705 U.S.A.
Phone : 1-914-963-1250(Answering24h working)
(FAX:also available)

◎校内同窓会役員
理 事 海和 雅人(S56) 原田 知明(S53)
幹 事 稲村 邦彦(S57) 猪俣 幸一(S54) 船山 洋子

編集後記

◇今号から米沢興譲館同窓会会報「興譲館」としてリニューアルしました。「興譲館」という校名を大切に伝えたいという思いです。編集委員が少し若返りました。長い間、編集長としてご尽力いただいた遠藤岩根先輩に心より感謝申し上げます。有り難うございました。

来年で平成卒が約7000名になります。女性も多くなりました。若い年代の方に同窓会を身近に感じていただけるよう企画編集したつもりです。いかがだったでしょうか。これからも同窓生の活躍を紹介していきます。ご意見ご要望がありましたら編集委員会へご連絡ください。(H・S)

◇多くの皆さんに原稿をお寄せいただき充実した紙面になりました。厚く御礼申し上げます。また、編集委員の皆様には取材や編集会議など編集活動に積極的にお力添えいただき、ありがとうございました。(M・I)

◇「連綿尽きぬ興譲の流れ」が実感できるような紙面になるよう、微力ながらお手伝いさせていただきます。

同級生の活躍を知り、励まされ、刺激を受けました。(T・H)

◇同窓生というつながりで、思いがけない出会いがありますね。次回の取材がワクワク楽しみです。(M・Y)

◇編集委員として取材に行かせていただきました。様々な分野で同窓生が活躍する姿を見ることができ、とても刺激になりました。(S・Y)

◇会報のリニューアルに際し、多くの方からの寄稿のご協力、ありがとうございました。多くの方に見ていただき楽しんでいただける充実した内容を続けていきたいと思ひます。(Y・K)

米沢興譲館同窓会会報編集委員会

委員長／鈴木 基(S49)
委 員／磯部 道昭(S44)・原田 知明(S53)・山口みどり(S60)
横山 昭子(S61)・川島 良範(H6)